

## 『今月の天候と農作業』

通巻第5711号  
5月号  
令和8年5月7日発行  
宮崎県  
宮崎地方気象台



### 【特に注意を要する事項】

2週目は気温がかなり高くなる可能性があります。

### 【予報のポイント】

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は九州南部で高く、奄美地方で平年並か高いでしょう。特に、九州南部では2週目は気温がかなり高くなる可能性があります。

### 【確率(%)】

要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	九州南部	20	30	50
降水量	九州南部	30	40	30
日照時間	九州南部	30	40	30

### 【予想される向こう1か月の天候】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間の前半は天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

#### <1週目の予報> 5月9日(土)～ 5月15日(金)

天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

#### <2週目の予報> 5月16(土)～ 5月22日(金)

天気は数日の周期で変わります。

#### <3週目から4週目の予報> 5月23日(土)～ 6月5日(金)

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

※明日から1週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報

(<https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/>)を参照してください。

## 普通作物

### ◆早期水稻

---

#### 1 水管理と病害虫防除

株当たり20本程度の茎数を確保したら、「中干し」を行いましょ。

中干し期間は5～7日程度を目安に、軽く足跡が付く程度に干します。

「いもち病」の予察情報に注意しましょ。特に、気温が25℃前後で、曇りや雨が続くと、発病が早まり、多発する恐れがあるため、ほ場をこまめに観察して、病害の早期発見に努めましょ。

#### 2 穂肥

今月末から6月上旬が穂肥の時期です。コシヒカリは、幼穂長が1cmになる時期を目安に、葉色を確認して施用しましょ。基肥一発タイプの肥料を施用している場合、穂肥は不要です。

### ◆普通期水稻

---

#### 1 田植時期と土づくり

ヒノヒカリは早植えすると出穂が早くなり、高温障害により品質が低下することから、極端な早植えは避けましょ。また、品質や収量を向上させるためには土づくりが重要です。深耕やケイ酸質資材、有機物の施用を行いましょ。

#### 2 育苗管理と田植え

塩水選後「ばか苗病」等の防除のため種子消毒を行いましょ。

芽の長さ1cmを目安に、緑化に移し、その後は、ハウス内が高温や高湿にならないよう注意しましょ。

田植時には、いもち病やウンカ類等の防除のために、薬剤の箱施用を行いましょ。

### ◆麦類

---

#### 1 収穫作業

成熟期の目安は穂首が黄化し、穀粒からも緑色が抜け、爪を立てるとロウくらいの硬さになった頃です。コンバイン収穫の場合は、その数日後（水分30%以下）に収穫しましょ。

(前畑 祐喜)

## 施設野菜

### ◆共通事項

---

日中の気温上昇と、日射量の増加に応じてかん水量を増やします。また、換気により、ハウス内の温度を30℃以下になるよう管理します。

### ◆きゅうり

---

葉に強い直射日光が当たると、葉が老化し、葉焼け症等が発生するため、日中は内張カーテン等を利用して日射量を調節します。ハウス内の湿度低下は、曲がり果や尻細果等の発生につながるため、乾燥しているときには、通路散水等による湿度確保に努めます。

### ◆ピーマン

---

夜温が高くなり、暖房機が稼働しない日が続くと、ハウス内の湿度が高まり病害が発生しやすくなるため、湿度管理を行います。また、日焼け果等の発生防止のため、日中は内張カーテン等を利用し、日射量を調節します。

茎葉が繁茂し、光線の透過不足等による白果や収穫遅れによる赤果の発生を防ぐため、光線を遮っている茎葉の整枝・せん定を行い、適期収穫を徹底します。

### ◆トマト

---

ミニトマトは、気温上昇に伴い裂果が多くなるため、日射量や翌日の天候を考慮したかん水を行います。また、収穫が遅れないよう適期収穫を徹底します。

大玉トマトは、高温乾燥により尻腐果の発生が多くなるため、かん水不足にならないよう注意します。また、草勢が低下すると小玉果となり、軟果玉や裂果が発生するため、追肥が遅れないようにしましょう。

### ◆いちご

---

収穫は終盤となりますので、次期作用の育苗を始めます。特に、炭そ病の発生等による苗不足を避けるため、炭そ病に感染していない健全な親株を使用します。感染の疑いのある苗は周囲の苗も含め早期に除去・処分するなど、万全の対策を実施します。

(川畑 康憲)

## 葉茎根菜類・いも類

### ◆共通（排水対策）

---

6月には梅雨期を迎えるため、5月中に、ほ場内外の排水路の整備・点検を行います。ほ場に設ける排水溝は、確実に排水口につなげます。排水口側の枕畝は設置しないことが望ましいですが、設置する場合には、枕畝に排水溝を設けましょう。

### ◆かんしょ

---

普通栽培の植付け期です。植付けは、なるべく曇天日や夕方、降雨前を選んで行い、苗のしおれや葉の傷みを防ぎ、活着を促します。採苗は植付け予定の3～5日前の午後に行います。苗は地際から5 cm以上離して切り取ると、病害回避に有効です。病害防止のため、植付け前に苗の農薬浸漬処理をする場合は、薬液は必ず使用する当日に調製し、苗全体が農薬に浸かるようにします。また、処理後は、温湿度を保ちながら数日保管すると発根が良くなります。

育苗床やほ場において、地際部の茎の黒変や芋の腐敗が見られたらサツマイモ基腐病等の可能性が考えられるため、速やかに除去します。その際は、他の株への伝染を避けるため、抜き取った株は速やかに肥料袋などに入れてほ場から持ち出します。株を除去した周辺の株は予防のため銅剤で防除します。

### ◆さといも

---

出芽が揃う時期です。5月までに出る芽は親芋から出た芽のため、2本以上出ている株は、大きい芽を1本のみ残し、他はかき取ります。また、ほ場が乾燥すると生育が遅れるため、かん水を行い、生育を促します。

葉に赤褐色の斑点が出始めたら疫病対策の防除を開始し、収穫まで葉を健全な状態に維持しましょう。

(倉永 泰代)

## 果樹

### ◆かんきつ全般

---

今年は園地によって生育がばらついている傾向にあります。着花が少ない園地は、着果確保のためにも着花状況を確認しながら、かぶり枝や新梢の除去を行いましょ。また、着花が多く新梢量が少ない園地は、花肥を施用するなど、着花や新梢の状況に合わせて、今後の管理を行いましょ。

極早生温州みかんの火山灰土壌マルチ栽培では、5月下旬からマルチ被覆の時期になります。園地周辺からの雨水の浸入を防止し、水はけの良い条件を確保します。また、過乾燥や減酸対策としてかん水施設を設置しましょ。

### ◆完熟きんかん

---

結果枝の充実を促進するため、窒素主体の葉面散布や、かん水をたっぷり行います。

5月中旬から下旬に発根促進剤と尿素を土壌かん注することで、1番果の結果安定が図られます。具体的な方法については、普及センターやJAに相談しましょ。

### ◆マンゴー

---

5月から6月にかけて出荷最盛期を迎えます。収穫が近づくにつれて果皮が弱くなるため、高湿度や果実結露による「やに果」や「あざ果」等の発生が増加してきます。ハウス内の急激な温度変化を防ぐために、こまめな換気やヒートポンプによる除湿を行い、果実の結露を防止するとともに、病害対策を徹底します。また、内カーテンや遮光ネットを利用し、果実の日焼けを防止しましょ。事故果の発生は産地の信頼を著しく低下させます。引き続き、適正な収穫・出荷作業を徹底しましょ。

### ◆ブドウ

---

この時期は生育ステージに応じて、花穂整形やジベレリン処理などの作業を行います。

花穂整形は房型を整え、養分競合による花振るいを防ぐ大切な作業です。品種ごとの基準どおりに行いましょ。

(前田 優香子)

## 花き

### ◆夏秋ギク

---

各種作業や電照管理については、作型に応じて計画的に行います。なお、再電照開始時期については、事前に花芽検鏡を行った上で決定します。

「精の一世」は、消灯後は完全シェードの11時間日長で管理します。7月出荷作型は幼若性を獲得する恐れがあるため、消灯前は12℃程度、消灯後は18℃程度の夜温を確保しましょう。

### ◆秋ギク

---

採穂用親株の挿し芽は、作型と穂冷蔵の有無を考慮し、所要日数を計算して計画的に作業を進めます。

ギクの腋芽は高温で消失しやすくなるため、腋芽の伸びにくい品種・系統は親株床をできるだけ涼しくし、必要に応じてBA剤を散布しましょう。

### ◆スイートピー

---

種子の肥大を促すために、採種までは定期的にかん水及び液肥施用を行い、殺菌剤を散布して灰色かび病による株の枯死を防止します。

受粉後45日程度が経過し、莢の色が緑色から褐色に変わってきたら採種を行います。収穫した莢は風通しの良い日陰で乾燥させ、取り出した種子は大きさ別に選別し、殺菌剤を粉衣して冷暗所で貯蔵します。

### ◆ホオズキ

---

結実時期です。着果不良の原因になるため、ハウス内の温度管理に注意しましょう。

また、7月出荷作型の病害虫防除は、6月上旬の着色処理前に実施します。

### ◆ラナンキュラス

---

球根掘り上げ時期です。

地上部が8割程度黄化した時点が目安です。その際、罹病株の球根は掘り上げないようにします。

掘り上げ後は洗浄・分球・ひげ根除去を丁寧に行い、殺菌剤による消毒後、十分に乾燥させます。

乾燥後の球根は乾燥剤を入れた容器に保管します。

## ◆シキミ

---

春芽の伸長から硬化時期です。黒しみ斑点病、サビダニ類の防除を行います。

(川崎 真和)

## 畜産

### ◆家畜防疫対策

---

令和7年シーズンの高病原性鳥インフルエンザ発生状況は、本県の2事例を含む23事例で、15道府県の全国各地において発生が確認されています。また、4月10日に、養豚農場で県内初事例となるCSF（豚熱）に感染した豚が確認されました。

その他にも、近隣諸国において口蹄疫やASF（アフリカ豚熱）等の発生が続いており、国内への侵入リスクが高まっています。

農場を守るため、畜舎内外の消毒はもとより、人・車両・物資の消毒と野生動物等の侵入防止対策を徹底し、農場にウイルスを侵入させないように、飼養衛生管理基準に基づく対策の徹底を図りましょう。

### ◆家畜

---

気温が高まり家畜の生産性が向上する時期ですが、日中の寒暖差があるため、温湿度環境を見ながら、細霧装置のこまめな稼働や換気対策等を徹底しましょう。また、雨の日が多くなると湿度が上昇し、気温がそれほど高くなくても家畜が不快な温湿度域になることもあります。

家畜は、ヒトが不快さを感じない温湿度域でも暑熱ストレスの影響を受けるため、注意が必要です。ヒートストレスメーター等で温湿度を確認しながら必要な対策を行いましょう。

### ◆飼料作物

---

今月は飼料用イネやとうもろこし・ソルガム等の作付け時期です。栄養価の高い飼料作物を栽培するために、土壌分析結果に基づく適正な肥培管理を行いましょう。

また、イタリアンライグラスの収穫時期となりますので、適期である出穂期に収穫・調製を行い、良質な自給飼料を確保しましょう。

(山岡 ひろみ)

## 特用作物

### ◆茶

---

#### 1 一番茶後の整枝

二番茶を摘採する茶園では、芽揃いを良くするため、一番茶の摘採7～15日後頃を目途に整枝を実施します。

#### 2 茶園の更新

樹高が高く、枝条が細くなった茶園は更新が必要です。中切りは、一番茶直後が望ましく、中切り位置は高さ40～50cm、枝幹の太さ6～8mmの位置を目安に実施します。

また、できるだけ曇雨天日を選んで行くと樹体への影響を軽減できます。

#### 3 病虫害防除

クワシロカイガラムシの防除は、幼虫の初発を確認して10～14日後頃が防除適期となるため、ふ化状況を見ながら、散布ムラのないよう丁寧に薬剤を散布しましょう。特に、雄繭が目立ち、枝枯れが見られる茶園では、中切りと組み合わせて防除を実施しましょう。

また、チャノキイロアザミウマやチャノミドリヒメヨコバイ等の害虫、炭疽病やもち病・黒葉腐病等の病害に対する防除は、二番茶の萌芽～開葉期に各地区の基準に準じて実施します。

#### 4 幼木園の管理

1～2年生の幼木園は強風に弱いため、台風に備えた準備が必要です。ソルゴーの間作は防風効果が高いため台風対策に有効です。十分な草丈を確保するために、播種は5月～6月までに行いましょう。

(新 正仙)

### ◆しいたけ

---

#### 1 本伏せ

今の時期は、急な温度上昇が発生することもあるので、ほだ木の温度・湿度の管理に注意が必要です。仮伏せ中のほだ木にしいたけ菌の活着が確認でき次第、南または南東向きの、水はけや風通しが良い場所に本伏せをします。高温・多湿になる梅雨入り前に作業を終了します。

裸地伏せでは、直射日光による高温や乾燥を防ぐため、笠木を30～40㌢の厚さ

でかぶせます。

特に、西日が当たる方向には、枝を長く張り出し、日が当たらないようにします。

林内伏せでは、落葉除去や下刈り、整理伐等により排水や通風を良くし、日陰が不足する場合は笠木等で補います。

## 2 ほだ場管理

高温多湿による害菌侵入等を避けるため、梅雨入り前に、防風ネット等の取り外しを行うとともに、ほだ場とその周辺の雑木雑草を刈り払う等して、通風促進を図ります。

また、害菌発生防止のため、害菌等の被害を受けたほだ木等の整理を行います。

(荒砂 美月)

## 関連情報

### 農作業安全

---

気温が上昇すると、疲れやすくなります。特に熱中症による救急搬送は、まだ体が暑さに慣れていない5月頃から急増する傾向があります。

農作業時には、こまめに休憩をとり、水分補給に努め、熱中症を予防しましょう。

(前畑 祐喜)

### ◆プラスチック被膜殻の流出抑制

---

水稲用一発肥料などの被覆肥料には、被覆の原料としてプラスチックが使用されているものがあります。

そのため水田では、肥料成分が溶出した後の被膜殻が水面に浮上し、河川や海洋等に流出し、プラスチックゴミになる可能性があります。浅水代かきを行うほか、代かきや田植え前の強制落水は避けるなどの水管理を行うことにより、被膜殻をほ場外に流出させないように注意しましょう。

### ◆農薬適正使用

---

農薬の使用に当たっては、散布前に必ず農薬ラベルに表示された適用作物、適用病害虫、濃度、量、時期、回数等の使用方法をしっかりと確認しましょう。

散布時には、河川等の周辺環境、隣接するほ場の作物、周辺住民、家畜等に害を与えないよう周囲への飛散・流出に注意しましょう。

農薬散布後に、散布履歴を記帳するとともに、使用した防除器具を十分に洗浄しましょう。

(農業普及技術課)

### 内容の詳細について

---

5月の天候と農作業の詳細内容について。執筆は県総合農業試験場及び山村・木材振興課、農業普及技術課が担当しています。各作物の病害虫の防除対策、気象災害の事前事後対策等の詳細は最寄りの支庁・農林振興局（農業改良普及センター）へ

☆「今月の天候と農作業」はホームページにも掲載しています。

(<http://nogyoukishou.pref.miyazaki.lg.jp>)

## 向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生量と防除対策

作物名	病害虫名	発生量	発生状況と防除対策
早期水稲	いもち病	並	補植用の取り置き苗は、いもち病の発生源になるため、補植が終わったら速やかに処分しましょう。
	イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ	やや多 やや少	スクミリンゴガイの生息数が多いほ場では粒剤の水面施用を行いましょう。施用に当っては水管理に十分留意し、水深が3 cm程度になるように調整し、7日間はかけ流しや落水をしないようにしましょう。
野菜・工芸作物	アブラムシ類 ハスモンヨトウ	やや多 やや多	アブラムシ類は各種ウイルス病を媒介するため、早期発見に努め、早めに防除しましょう。
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病	多 やや多 やや多	べと病、褐斑病の発生を抑制するために、施設内の換気を良くし、過湿防止に努めましょう。うどんこ病は乾燥条件下で発生しやすいため、適正な温度・水管理に努めましょう。
	黄化えそ病(MYSV) メキキイロアザミウマ	やや多 やや少	栽培終了時は、黄化えそ病を媒介するミナミキイロアザミウマの拡散を防止するため、施設の蒸し込み等により本虫を死滅させた後に残さを処分しましょう。 タバココナジラミの発生が多くなっています。発見したら直ちに防除し、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行いましょう。
	タバココナジラミ	多	
	冬春ピーマン	斑点病 うどんこ病 黒枯病	並多 やや多
冬春トマト	灰色かび病 葉かび病 すすかび病 うどんこ病	やや少 少 やや多 多	
	タバココナジラミ 黄化葉巻病(TYLCV)	多 並	葉巻病を媒介するタバココナジラミの拡散を防止するため、施設の蒸し込み等により本虫を死滅させた後に残さを処分しましょう。
バレイショ	疫病	—	発生後は急激に進展・蔓延するため予防防除に重点をおきます。薬剤散布は、薬液が下葉に達するように十分量を散布しましょう。
果樹全般	果樹カメムシ類	—	県内予察灯への誘殺数が平年より多くなっています。ウメやモモなどの結実中の果樹類では飛来に注意し、初期防除を徹底しましょう。
カンキツ (露地栽培)	そうか病 かいよう病 灰色かび病	並 並 —	そうか病、かいよう病に罹病している枝葉は発生源となるため、徹底的に除去しましょう。 灰色かび病の防除適期は落弁期です。また開花期から落弁期にかけての降雨で、本病の発生に好条件となるため注意が必要です。 ミカンハダニは、要防除水準(寄生葉率30%あるいは10葉当り寄生虫数5～10頭)に達したら速やかに防除しましょう。
	ミカンハダニ	やや多	
茶	炭疽病	並	炭疽病の防除対策として、一番茶摘採後の基幹防除を徹底しましょう。
	チャノコクモンハマキ チャハマキ、チャホソガ カンザワハダニ※ チャノトリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ ツマグロオカスカメ クワシロカイガラムシ	並 並多 やや多 並 やや多 やや多	カンザワハダニ、チャノキイロアザミウマは、多発してからでは防除が困難になるため、早期発見・早期防除に努めましょう。 クワシロカイガラムシの薬剤散布量は、成園で10a当たり1000リットルを目安に、枝幹に十分かかるように丁寧にいきましょう。また、激発園でふ化最盛期が一番茶後になる場合は、中切り更新による防除が有効です。

1) 「発生量」は、過去10年間の発生量と比較して、今後の発生量がどの程度になるか予測したものです。

2) ※は病害虫発生予察注意報を発表中です。

2) 病害虫防除肥料検査センターのHPアドレスは、QRコードより閲覧してください。

